

アフリカでSDGs実践



ケンセイ産業がケニアの病院に導入した焼却炉。遠隔からの指示で設置できた

人口爆発のアフリカは「最後の巨大市場」と呼ばれるが、貧困層が多く、本格的な成長には時間がかかると見られる。TICAD7開催の3年前と同じ、持続可能な開発を阻む課題も変わっていない。

中小にもビジネスチャンス

第8回アフリカ開発会議（TICAD8）が11日、北アフリカのチュニジアで始まる。TICADは経済成長による貧困削減を目指す国際会議。2019年に横浜市中で開催した後のTICAD7は持続可能開発目標（SDGs）と相まって、日本企業のアフリカ進出の機運が高まった。当時と比べ市場環境は変化があり、中小企業にもビジネス獲得のチャンスが広がっている。

（1面参照）

TICAD8
あす開幕

現地の課題解決、進出の糸口

が替わらずと言われている。新型コロナウイルス感染症の大流行が、アフリカでも深刻な影響を及ぼしている。医療の課題は緊急度が高まった。3年前と比べ変化もある。一つがスタートアップ・新興企業の台頭だ。日本人が起業し、ウガンダで日本料理店を開業する「COO」や、ケニアで捕れた鮮魚を低価格で運ぶ「コールドチェーン」構築に挑む、日本企業の海外進出を支援する国連・産業開発機構（UNIDO）東京事務所は今津氏は、現地で起業して試行錯誤している若手日本人が増えた」と印象を語る。

ケンセイ産業の技術者が遠隔できず、オンラインで運転を指導した



「オンラインの登場によってアフリカとの距離が近くなった。中小企業にとってSDGsを実践しやすい環境ができてきた。SDGsを推進する機会が広がっている」と話す。現地では、SDGsを推進する企業が増えている。UNIDOの村上秀樹氏は「自分たちのビジネスや技術が現地の課題の解決に役立つことが、考えることが重要。現地の課題を自分たちで解決したいという思いが強い」と話す。オンラインの登場によってアフリカとの距離が近くなった。中小企業にとってSDGsを実践しやすい環境ができてきた。SDGsを推進する機会が広がっている」と話す。

新興企業台頭 ■ オンライン活用進む

UNIDO東京事務所は、新興国の課題解決に役立つ技術登録する「サステナブル技術及プラットフォーム（Sustentable Platform）」を運営する。ケンセイ産業も登録する。担当の後藤氏は「アフリカ進出の糸口を見つけた企業はほかにもある」と紹介する。これからアフリカ進出を検討する企業に対し、UNIDOの村上秀樹氏は「自分たちのビジネスや技術が現地の課題の解決に役立つことが、考えることが重要。現地の課題を自分たちで解決したいという思いが強い」と話す。オンラインの登場によってアフリカとの距離が近くなった。中小企業にとってSDGsを実践しやすい環境ができてきた。SDGsを推進する機会が広がっている」と話す。